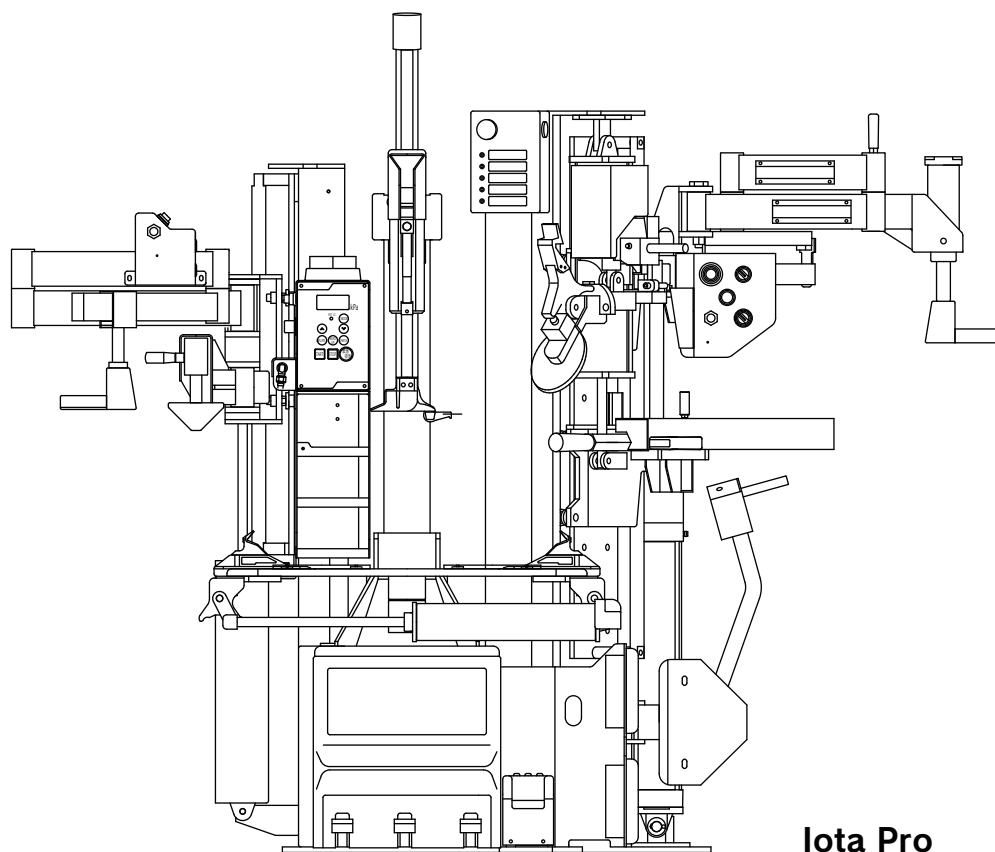


取 扱 説 明 書

PC.TIRE CHANGER

エクシード EXCEED Iota シリーズ



※取扱説明書が現品と異なる場合は、販売会社まで請求してください。



警 告

製品を使用する前に必ず取扱説明書をよく読み、充分理解してから使用してください。
この取扱説明書はいつでも使用出来るように大切に保管してください。



ONODANI

TIRE SERVICE SOLUTION

目 次

1. まえがき	1
2. 使用目的	1
3. 危険・警告・注意事項	2
(1)一般的な注意事項	2
(2)警告ラベルの貼付位置・内容	3
4. 各部の名称と機能	5
(1)各部の名称と機能	5
(2)電気回路図	7
(3)空圧系統図	9
5. 取り扱い方法（基本仕様）	11
(1)始業点検	11
(2)操作ペダルと各部の動作	11
(3)ビード落とし	13
(4)チャッキング	14
(5)タイヤ爪セット	15
(6)ビードプレス装置	16
(7)マウントプレス装置	17
(8)ホイールプレス装置	17
(9)ディマウント	18
(10)タイヤクリーム噴射（IotaPro標準装備）	23
(11)マウント	28
6. 定期点検	29
7. 故障と処置	31
8. 仕 様	33
9. 製品保証規定	35
(1)保証規定	35
(2)保証請求方法	35
(3)アフターサービスについて	36
(4)設置(据付)及び移動について	36

1. まえがき

この度は弊社の「PC用タイヤチェンジャー」をお買上頂き、誠にありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからご使用ください。

取扱説明書に記載されている注意事項及び使用方法をよくご理解いただかないと、本機の適正な能力を発揮できないばかりか、人身事故やタイヤ・ホイールの損傷につながりますので、充分なご理解のうえ、正しくご使用ください。

また、この取扱説明書はいつでもご使用になれるように大切に保管しておいてください。
尚、取扱説明書・注意ステッカー等は大切にご使用して頂き、万一紛失・汚損された場合には、速やかに購入の上、正しく保管・貼付してください。

2. 使用目的

このタイヤチェンジャーは、普通乗用車及びライトトラックのタイヤ交換を行うことができるタイヤチェンジャーです。

3. 危険・警告・注意事項



警 告

この取扱説明書では「**危険**」「**警告**」「**注意**」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は、安全作業のために重要な事柄です。人身事故や財物損害防止のため重要な事柄が記載されていますので、必ず理解してからご使用してください。



危 険……取扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警 告……取扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う恐れが想定される場合。



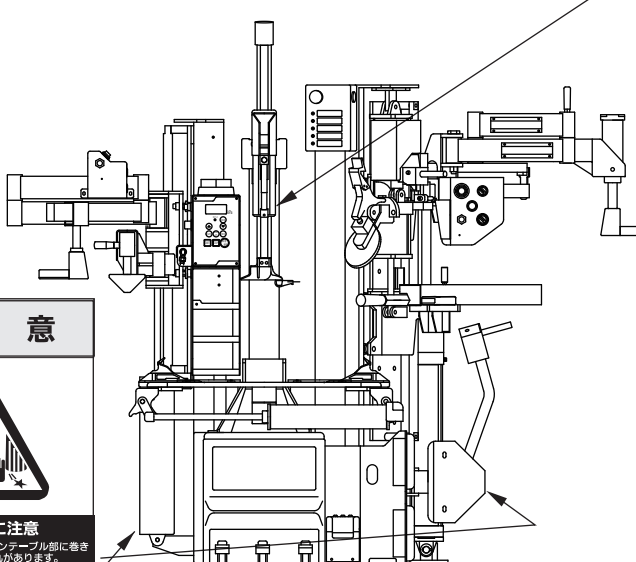
注 意……取扱いを誤った場合に、使用者が障害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

(1)一般的な注意事項

- ①取扱説明書をよく読み、よく理解してから使用してください。
- ②このチェンジャーの操作は、使用方法を熟知した人以外は使用しないでください。
- ③始業点検及び定期点検は、取扱説明書の本文に従って、必ず実施してください。
- ④運転時に異音発生等、普段と異なる状態の時は、チェンジャーの使用を禁止し、お買上の販売会社に連絡して、点検を受けてください。
- ⑤本機は防水仕様になっていませんので、屋外設置や水による洗浄等は避けてください。
- ⑥このチェンジャーをタイヤ交換以外の目的に使用しないでください。

(2)警告ラベルの貼付位置・内容

危険・警告・注意ラベル貼付位置



⚠ 危険  エアの入れすぎ禁止 指定空気圧を確認し、入れすぎないこと。パーストにより重大事故につながる可能性があります。		ここに示す警告事項は、タイヤチェンジャーの取扱方法を誤った場合に、使用者が怪我を負う可能性が想定される事柄です。警告ラベルは、はがれや汚損された場合、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付して下さい。
⚠ 警告		
 タワーが倒れます 後部への立ち入り禁止 身体が挟まれ、重大事故につながる可能性があります。	 取扱説明書をよく読み、理解して使用すること 誤った操作方法により思わぬ事故につながる可能性があります。	
⚠ 注意		
 回転部分に注意 誤った操作方法によりターンテーブル部に巻き込まれ、挟まれる恐れがあります。	 マウンティングクローに注意 誤った操作方法によりクローとホイール間に挟まれる恐れがあります。リムとヒート間にも手を入れないで下さい。	 クランプに注意 誤った操作方法によりクランプに挟まれる恐れがあります。クランプとホイール間に手を入れないこと。
 ビードブローカーに注意 誤った操作方法によりビードブローカーに挟まれる恐れがあります。本体とビードブローカー間に手を入れないで下さい。	 内側クランププロテクターでの脱着作業禁止 ホイールが外れる恐れがあります。エア充填専用です。	 脱着作業時は外側クランププロテクターを使用する。 内側クランププロテクターはエア充填専用です。
 ビードブローカーに注意 誤った操作方法によりビードブローカーに挟まれる恐れがあります。本体とビードブローカー間に足を入れないで下さい。	 感電注意 コンセント脱着時、感電注意！	 感電注意 必ずアース線を接続すること。
	 機械排気 to 注意 誤った操作方法により機械内のエアホースを外すと機械内のエアが吹き出します。エアを止める機械内のエアを抜いてから外す。	 供給エア圧力 最高圧力 800~1000kPa (8~10kg/cm ²) とすること。



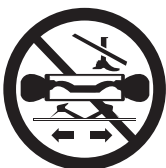
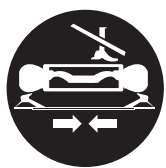
注 意

警告ラベルが紛失・汚損により読めなくなった場合は、直ちに購入し、正規の位置に貼付して下さい。

- 警告ラベル不備状態で、タイヤチェンジャーを使用しないで下さい。
- 全ラベルが、作業から目視可能な位置に貼付して下さい。

警告ラベル内容

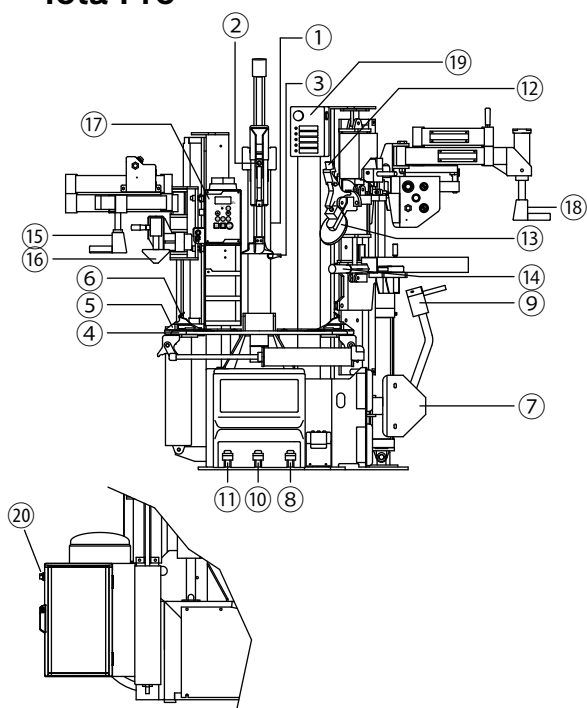
※下記警告ラベルがタワー側面に貼付されています。

 危険			
		ここに示す警告事項は、タイヤチェンジャーの取扱方法を誤った場合に、使用者が怪我を負う可能性が想定される事柄です。警告ラベルは、はがれや汚損された場合、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付して下さい。	
エアの入れすぎ禁止 指定空気圧を確認し、入れすぎないこと。バーストにより重大事故につながる可能性があります。			
 警告			
			
タワーが倒れます 後部への立ち入り禁止 身体が挟まれ、重大事故につながる可能性があります。		取扱説明書をよく読み、理解して使用すること 誤った操作方法により思わぬ事故につながる可能性があります。	
 注意			
			
マウンティングクローに注意 誤った操作方法によりクローとホイール間に挟まれる恐れがあります。リムとビード間にも手を入れないで下さい。		クランプに注意 誤った操作方法によりクランプに挟まれる恐れがあります。クランプとホイール間に手を入れないこと。	
			
内側クランププロテクターでの脱着作業禁止 ホイールが外れる恐れがあります。エア充填専用です。		脱着作業時は外側クランププロテクターを使用する。 内側クランププロテクターはエア充填専用です。	
			
機械排気に注意 誤った操作方法により機械へのエアホースを外すと機械内のエアが吹き出します。エアを止め機械内のエアを抜いてから外す。		供給エア圧力 800～1,000kPa (8～10kg/cm²) とすること。	

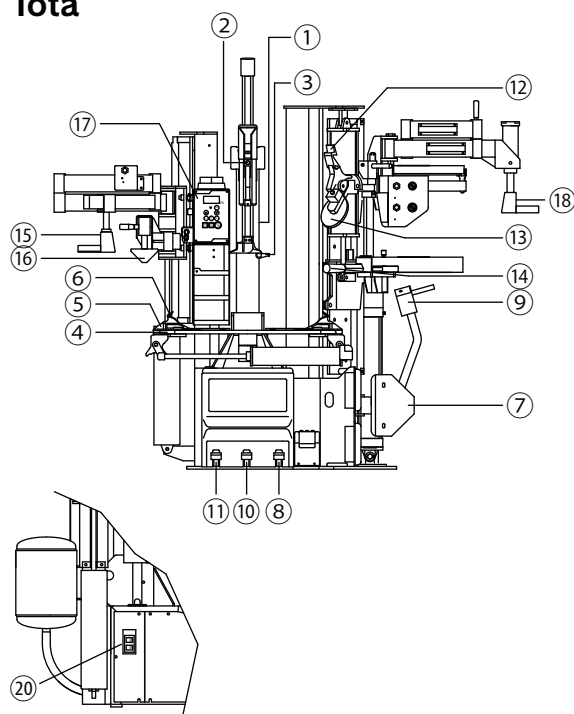
4. 各部の名称と機能

(1) 各部の名称と機能

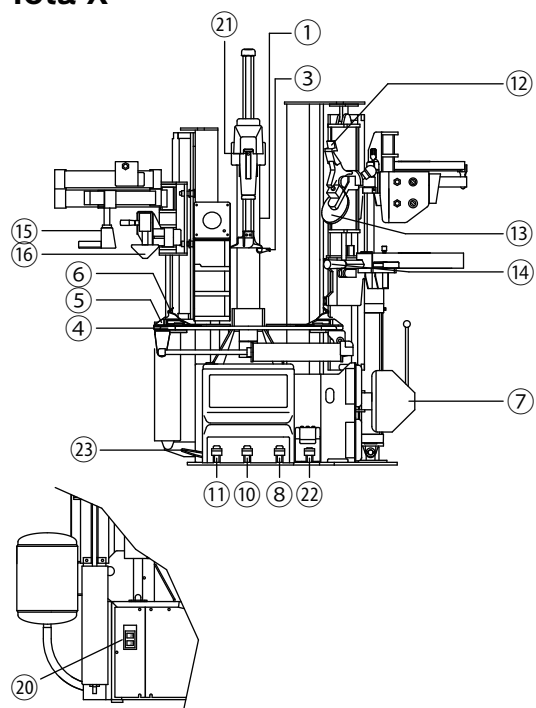
Iota Pro



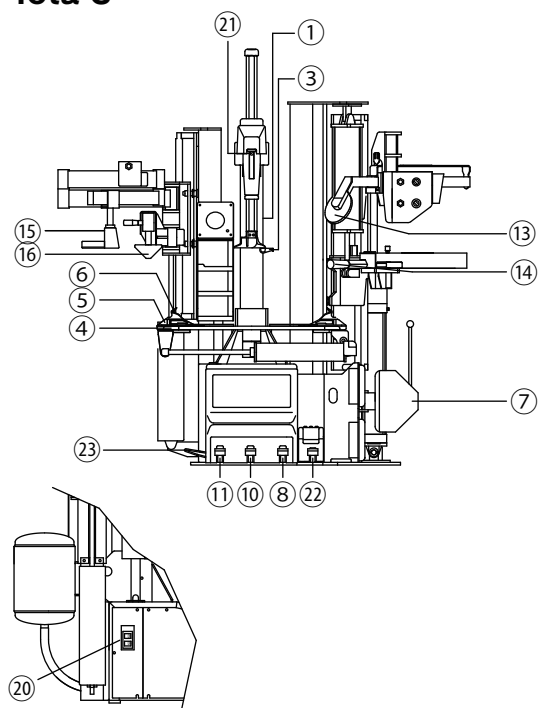
Iota



Iota X



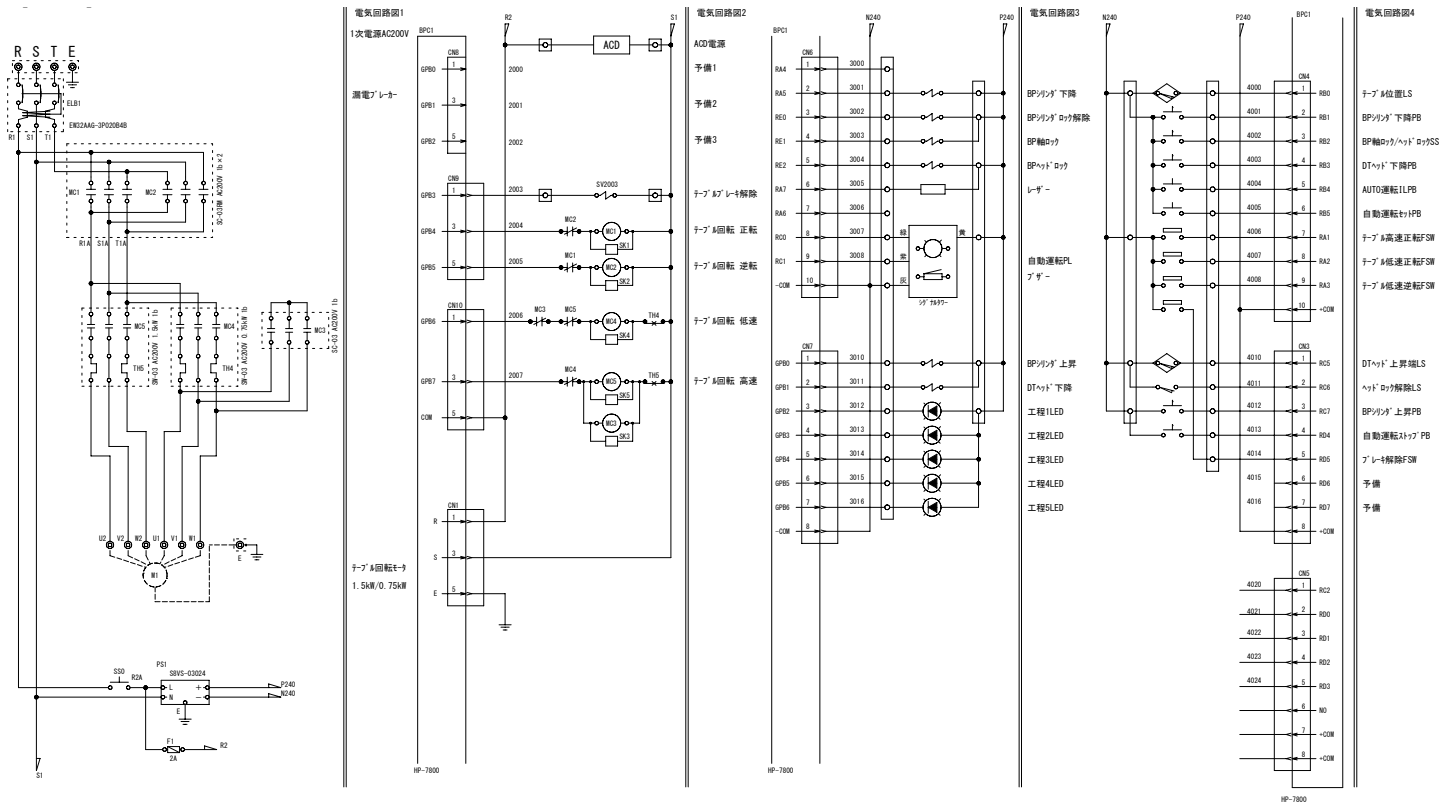
Iota S



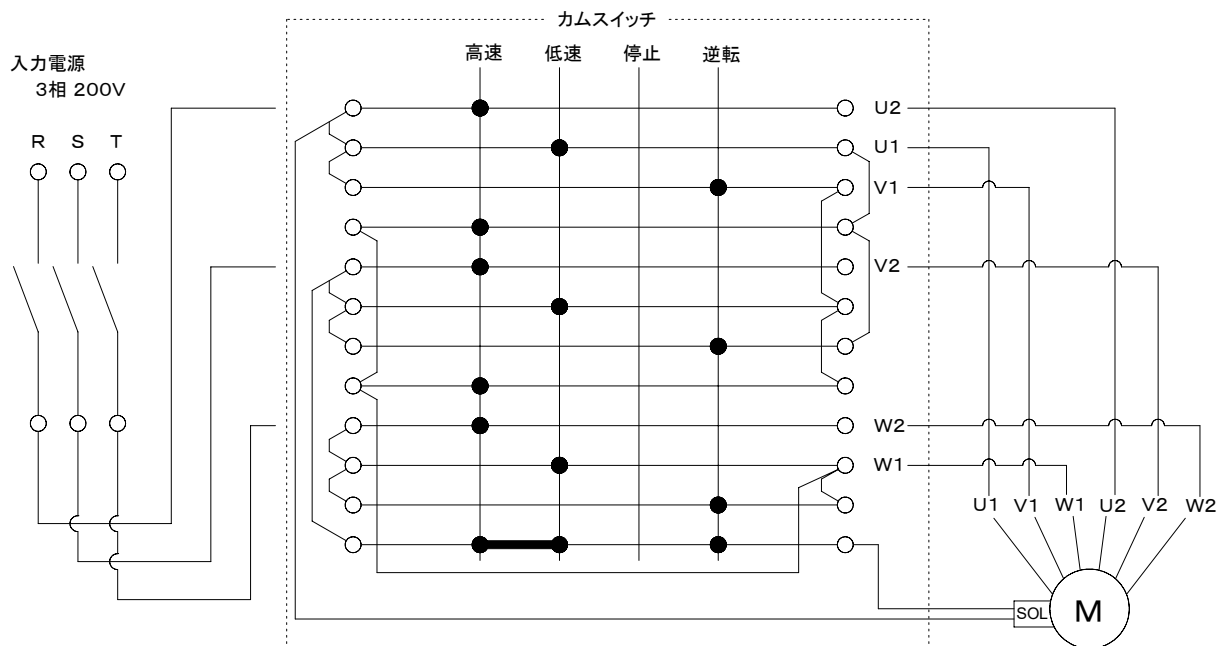
No.	名 称	機 能
1	タ フ ー	転倒・倒立を行う主要フレーム
2	コントロールボタン	タイヤ爪を昇降・ロックさせるボタン
3	タ イ ヤ 爪	タイヤの脱着を行う為の主要爪
4	タ ー ン テ ー ブ ル	タイヤ・ホイールを乗せるテーブル板
5	ス ラ イ ダ ー	テーブル板溝内をスライドする
6	チ ャ ッ ク 爪	ホイールを固定する主要爪
7	ビードブレーカー	ビードを落とす為のブレード
8	回 転 ペ ダ ル	テーブル板の正転・逆転を行うペダル
9	ビードブレーカー操作バルブ	ビードブレーカーを作動させるハンドバルブ
10	チャッキングペダル	スライダーの開閉を行いホイールを固定するペダル
11	タ ー 倒 立 ペ ダ ル	タワーの転倒・倒立を行うペダル
12	D T ヘ ッ ド	上側ビード脱を行う為の樹脂製の爪
13	ビードプレスローラー	上側ビード組込みの際タイヤビードを押さえるローラー
14	ビードアップローラー	下側ビードがはまり込んだ際持ち上げるローラー
15	マ ウ ン ト プ レ ス 板	上側ビード組込みの際タイヤビード部を押さえ回転と一緒に回る板
16	ホイールプレスコーン	チャッキングの際ホイールを抑える樹脂コーン
17	自 動 エ ア 充 填 機	タイヤ内へエアを供給する装置
18	補助プレスローラー	上側ビード組込みの際タイヤビード部を押さえ一緒に回るローラー
19	A D P モ ニ タ ー	セミオート運転(タイヤ脱)の進行状況を確認できるモニター
20	電 源 ス イ ッ チ	機械内部に電気を送るスイッチ
21	アームロックボタン	タイヤ爪をフリーにさせる押しボタン
22	ビードブレーカーペダル	ビードブレーカーを作動させるペダル
23	連 動 ペ ダ ル	エア充填とインフレーターを作動させるペダル

(2)電気回路図

Iota Pro



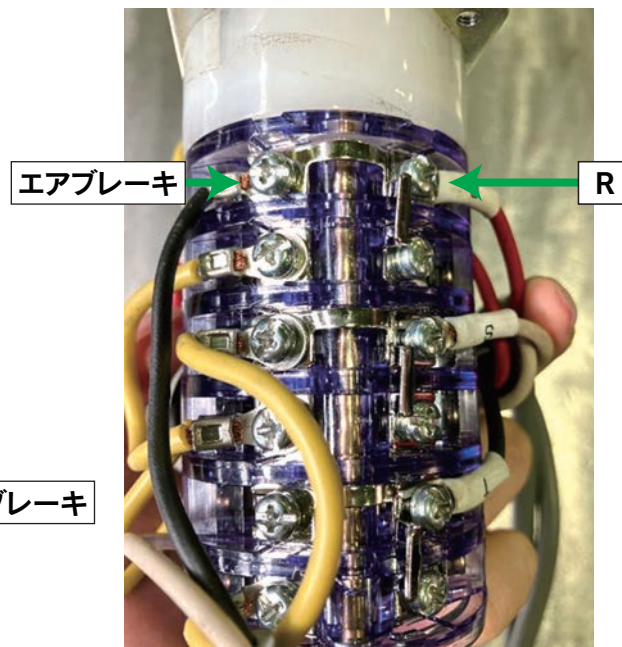
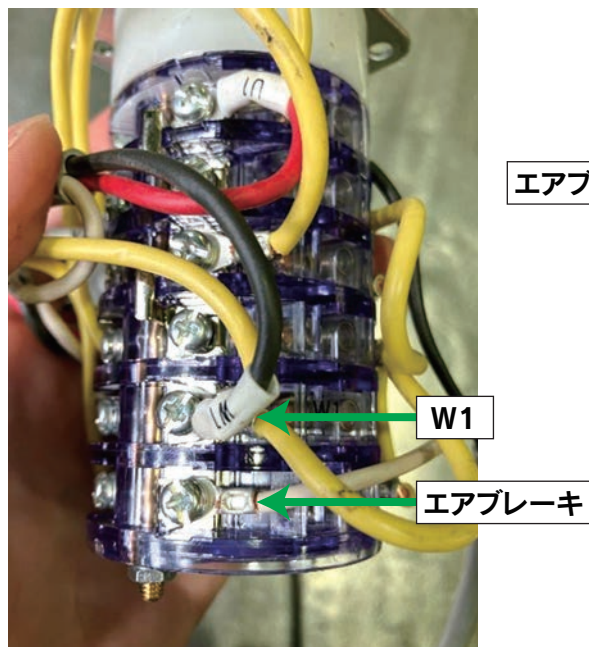
Iota / Iota X / Iota S



Iota / Iota X / Iota S

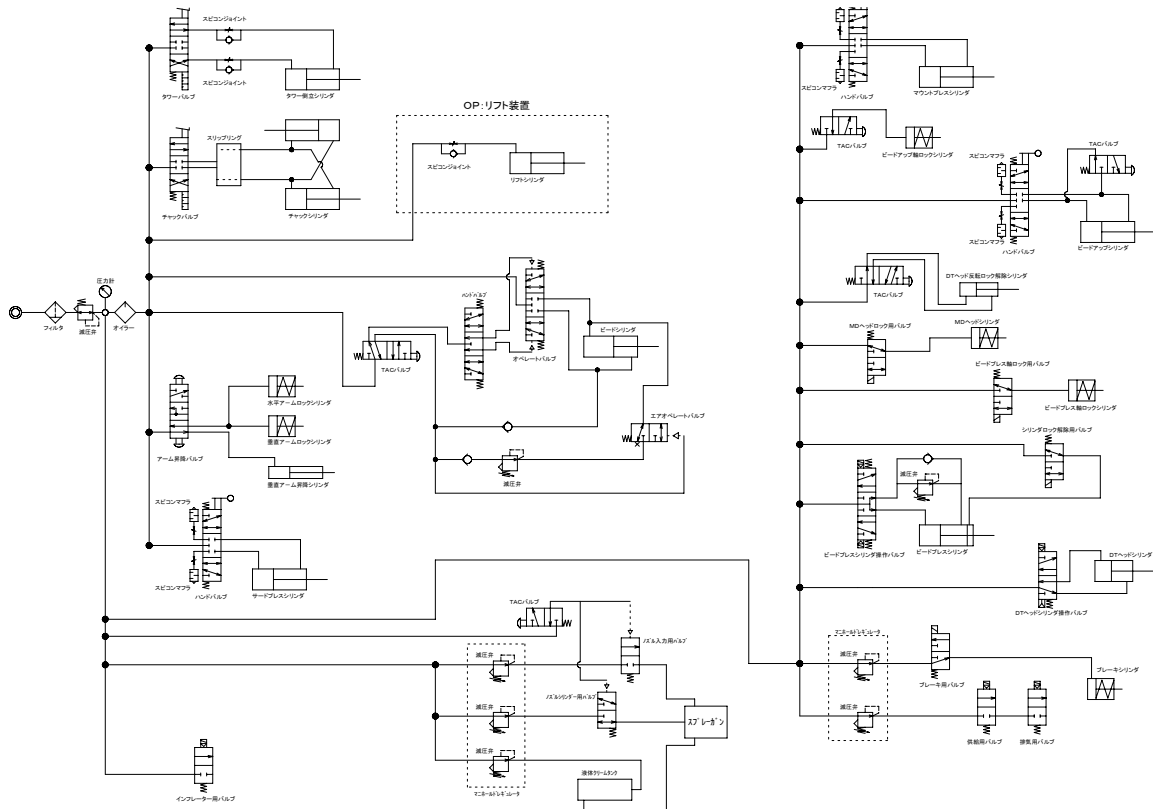
エアブレーキ2芯線の配線

W1の隣とRの向かい側に配線する

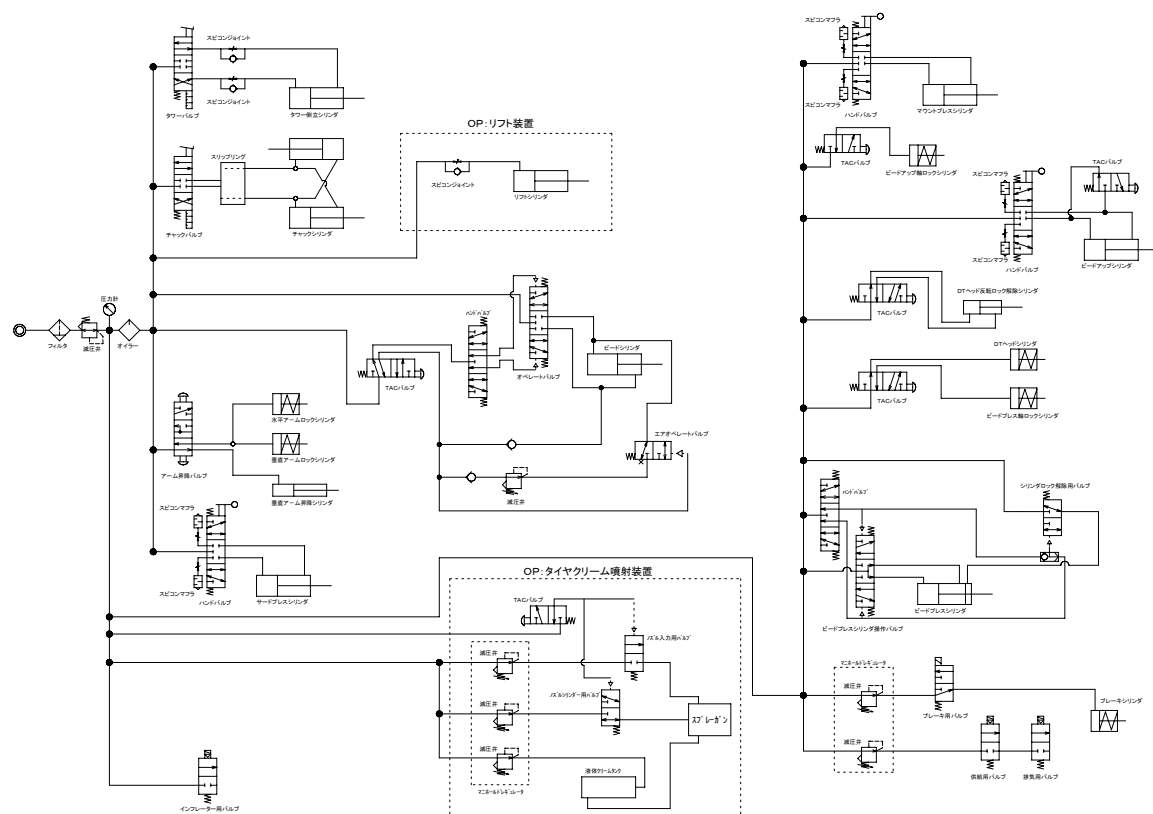


(3)空圧系統図

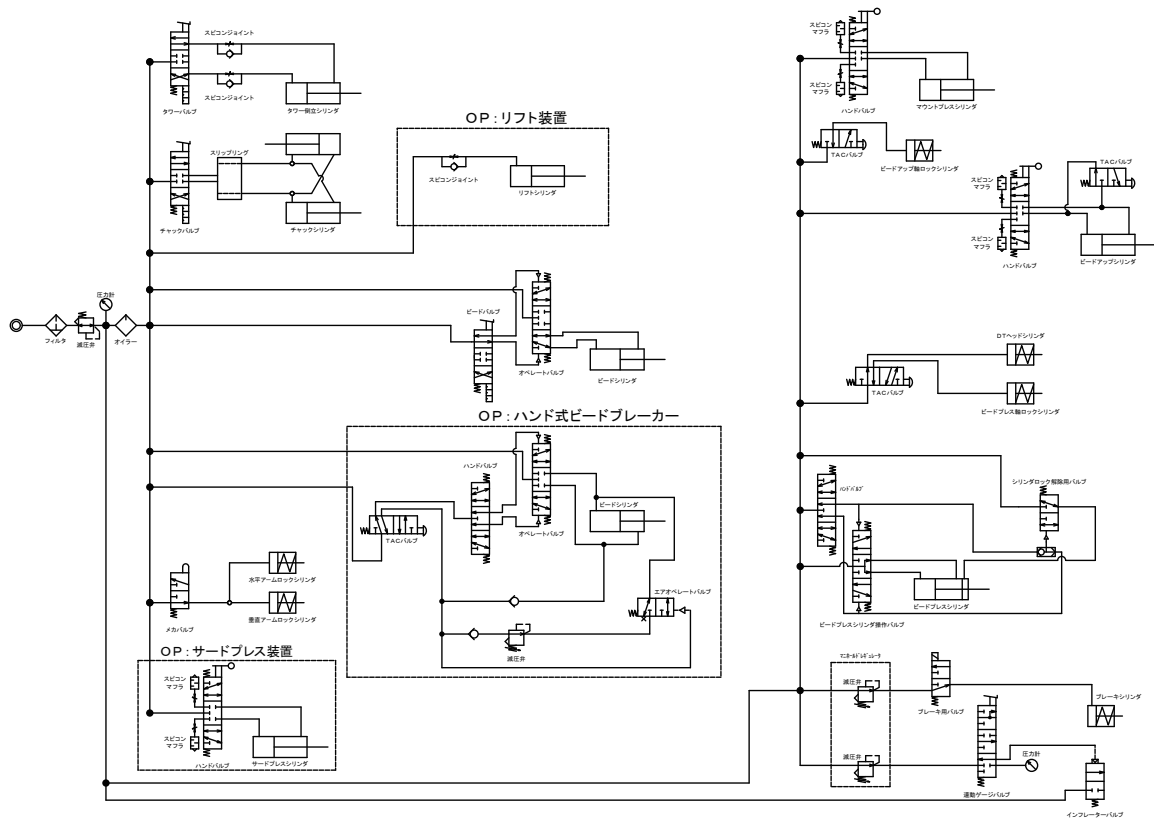
Iota Pro



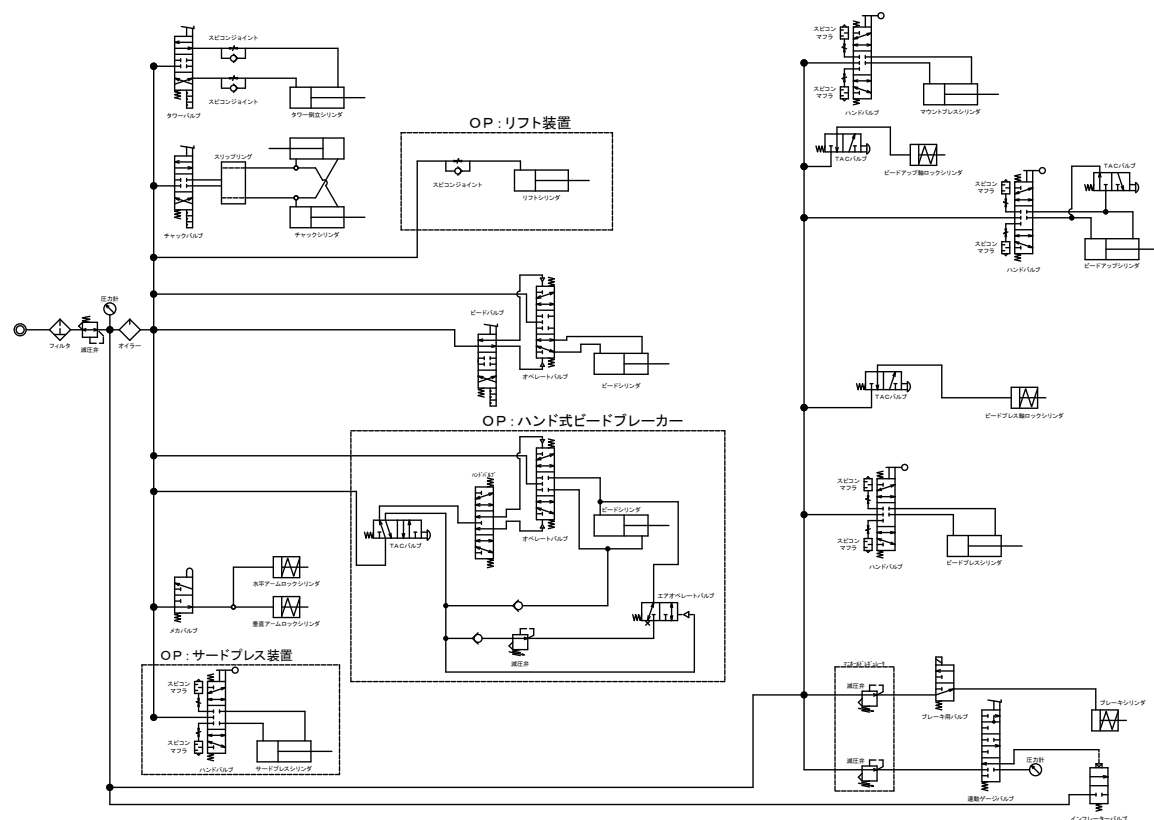
Iota



Iota X



Iota S



5. 取り扱い方法〔基本仕様〕

(1) 始業点検

毎日、作業前に必ず始業点検を行ってください。

- ① チェンジャー本体に外観上の異常（変形・破損・磨耗等）はないか。
- ② 各ボルト、ナット類の緩みはないか。
- ③ 各シリンダー、エアホース、接続部等にエア洩れはないか。
- ④ 各足踏みペダルはスムーズに作動するか。
- ⑤ ターンテーブルはスムーズに正転・逆転するか。また、異音がないか。
- ⑥ ビードブレーカーペダルを踏んで、ビードブレーカーは正常に作動するか。
- ⑦ チャッキングペダルを踏んで、スライダーはスムーズに開閉するか。
- ⑧ タワー倒立ペダルを踏んで、タワーはスムーズに転倒・倒立するか。



警 告

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまではチェンジャーの使用を禁止して、直ちにお買上げの販売会社に連絡してください。そのままお使いになると、チェンジャーの破損および重大な事故につながる危険性があります。

(2) 操作ペダルと各部の動作

① タワー倒立

一度ペダルを踏むとタワーは後方に倒れ、再度ペダルを踏み込むと、タワーは倒立します。

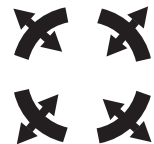


警 告

チェンジャー使用時は、本体後側に立ち入らぬよう注意してください。
タワーが転倒した際、頭部を強打する危険性があります。

② チャッキング

一度ペダルを踏むとチャック爪は閉じ、再度ペダルを踏むと開きます。
チャック爪を閉じる動作の際、軽くペダルを踏むと中間位置でストップします。



警 告

チャッキング操作の際、テーブル板上に手を乗せないよう注意してください。
テーブル溝とスライダーの間に指をはさむ危険性があります。

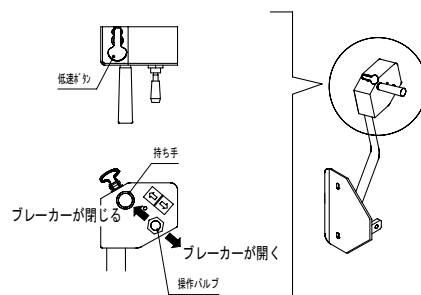
③-1 ハンド式ビードブレーカー

[Iota Pro / Iota / Iota X / Iota S]

持ち手を握り操作バルブを持ち手側に引くとビードブレーカーが閉じて行き、操作バルブの操作を止めるとビードブレーカーの動作が止まります。

操作バルブを持ち手逆側に押すとビードブレーカーが開いて行きます。

低速ボタンを押すとビードブレーカーはゆっくりと閉じて行きます。

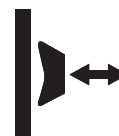


③-2 フット式ビードブレーカー [Iota Pro / Iota]

ペダルを踏み込むと、ビードブレーカーが作動し、離すと戻ります。

また、ペダルを途中で止めるとビードブレーカーが任意の位置で止まります。

奥まで踏み込むと、低速で作動します。



③-3 フット式ビードブレーカー [Iota X / Iota S]

ペダルを踏み込むと、ビードブレーカーが作動し、離すと戻ります。

また、ペダルを途中で止めるとビードブレーカーが任意の位置で止まります。



警 告

チェンジャー使用時に、チェンジャー本体とビードブレーカーの間に体を入れないよう注意してください。ブレーカーに体をはさまれる危険性があります。

④ターンテーブル回転

ペダルを踏み込むと、ターンテーブルは正転(時計回り)し、押し上げると逆転(反時計回り)します。

2スピード仕様時はペダルを浅く踏むと低速正転、深く踏むと高速正転します。逆転は低速のみです。



警 告

ターンテーブル回転時、テーブル板上またはスライダー、チャック爪等の上に手を乗せないよう注意してください。手を絡まれる危険性があります。

⑤-1 アームロック [シリンダー昇降機]

コントロールボタンを引ききると(図1参照)垂直アームが上昇し、中立にすると(図2参照)垂直アームは下降し、押しきると(図3参照)垂直・水平アームがロックされます。

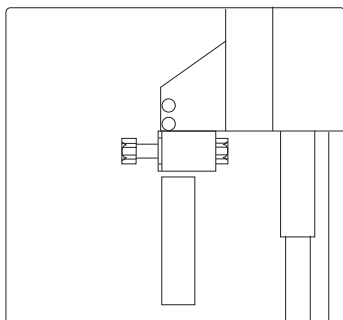


図1 垂直アーム上昇状態

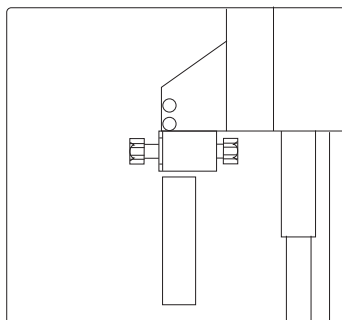


図2 垂直アーム下降状態

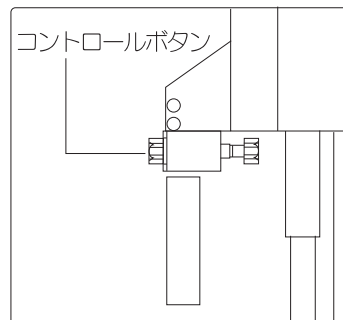


図3 垂直・水平アームロック状態

⑤-2 アームロック [スプリング昇降式]

通常、水平・垂直アームはロックされた状態です。ロックボタンを押すとロックは解除します。



警 告

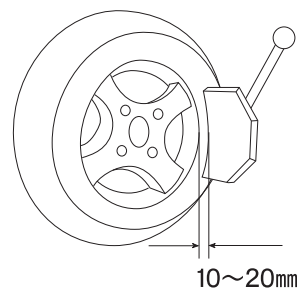
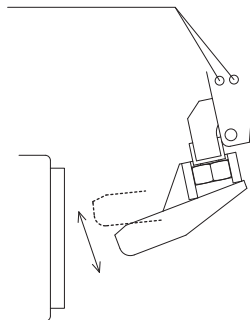
**タワーが転倒している状態で、アームロック解除を行わないよう注意してください。
水平アームが一気に後方にさがり、手をはさむ危険性があります。**

(3) ビード落とし

- ①タイヤ内のエアを完全に抜き、バランスウェイト等は取り除いてください。
- ②ピンの差替えによりタイヤ・ホイールのサイズや形状にあわせてブレード角度を調整してください。
- ③ビードブレーカー部にタイヤを垂直に立てビードブレーカーのブレード部をホイールより10～20mm離してセットします。
- ④ビードブレーカー操作バルブもしくはペダル操作でビードを落とします。ビードが落ちそうになったら低速動作に切り変えることで、衝撃を抑えたビード落としが可能です。
(※衝撃緩和機能)
- ⑤1回でビードが落ちない場合は、タイヤの位置を少し変えて再度操作を行なってください。
- ⑥タイヤを裏返し、同様の作業を行います。

※lota X / lota Sフット式ビードブレーカーには衝撃緩和機能は付いていません。

ピン差替にて
角度調整が可能





注 意

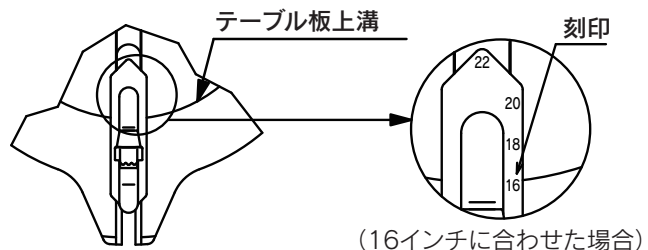
- ①ビード落としの際は、右手でブレードのにぎりをしっかり持ち操作してください。
- ②ビードブレイク時、チャック爪が開いているとタイヤが当たる場合があるので注意してください。
- ③ブレードを当てる位置は、ホイールのバルブ部を避けてください。
- ④付属の「LT用ブレーカー受け」を使用した後は元に戻してください。
つけっぱなしのままでテーブルを回転すると干渉し破損する恐れがあります。

(4)チャッキング

- ①水平・垂直アームのロックを解除して、タイヤ爪を後方に戻してから再度アームをロックしブームを倒します。
- ②タイヤ付ホイールをチャックする場合は、ペダルによる中間ストップで、あらかじめスライダ位置をホイールサイズに合わせておくとう便利です。
- ③チャッキングペダルを踏んでホイールを固定します。この際、ホイールが4つのチャック爪の内側にあることを確認してください。
- ④ホイールのドロップ位置が上になるようにセットしてください。通常ドロップ位置はホイールの表面に近い位置にありますが、リバースホイールは表面から遠い位置にドロップがあります。

〈ホイールサイズ合わせ〉

中間ストップ操作で、テーブル板上の溝に作業するホイールサイズ(径)の刻印を合わせる。



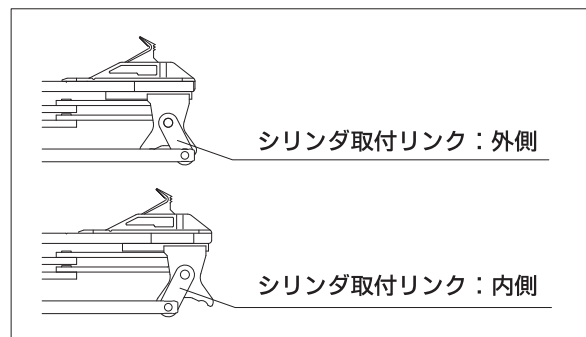
〈チャッキングサイズ切替え〉

lota Pro / lota

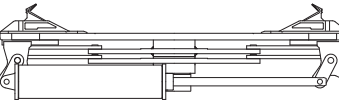
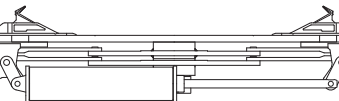
チャッキングサイズは2つのシリンダ取付リンクの位置を切り替えることで3段階に変更できます。

lota X / lota S

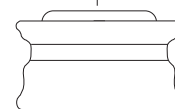
チャッキングサイズは片方にあるシリンダ取付リンクの位置を切り替えることで2段階に変更できます。



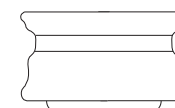
Iota Pro / Iota

	両シリンダ取付リンクが外側 チャッキングサイズ: 10" ~ 22"
	シリンダ取付リンクが1つは外側、 1つは内側 チャッキングサイズ: 12" ~ 24"
	両シリンダ取付リンクが内側 チャッキングサイズ: 14" ~ 26"

〈ドロップ位置〉
ディスク側

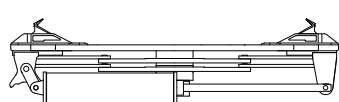


通常タイプ



リバースタイプ

Iota X / Iota S

	シリンダ取付リンクが外側 チャッキングサイズ: 12" ~ 24"
	シリンダ取付リンクが内側 チャッキングサイズ: 14" ~ 26"



注 意

タイヤマウント、ディマウント作業の際は、必ずホイールを外側クランプしてください。

(5) タイヤ爪セット

タワー倒立後、垂直アームを下降しタイヤ爪をホイールに合わせ垂直・水平アームをロックします。



注 意

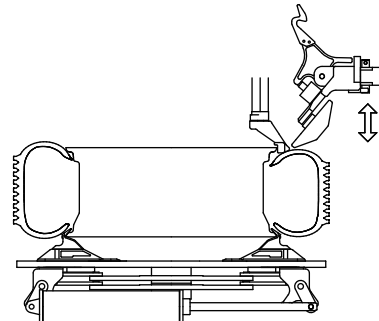
タワーを倒立する場合、タイヤ爪が後方に戻っている事を確認の上、倒立を行ってください。倒立した際、タイヤ爪がホイールに干渉し、損傷する危険性があります。手をタイヤ・ホイール上面に置かないでください。垂直アーム下降時に挟む危険があります。

(6) ビードプレス装置

(1) ビードプレス操作

ビードの硬い扁平タイヤの組込みはドロップセンター部への押さえ込みが大変です。
このような場合はビードプレス装置を使用することでスムーズな組込みが行えます。

- ① ハンドバルブでプレス装置を上昇し、タイヤより上側にセットします。
- ② 水平軸の出し入れによりビードプレスローラーをホイール径に合わせ、水平軸をロックします。
- ③ ハンドバルブで、プレス装置を下降し、タイヤビード部がドロップセンター位置にくる高さにセットします。
- ④ その後、テーブル回転により組込みを行います。



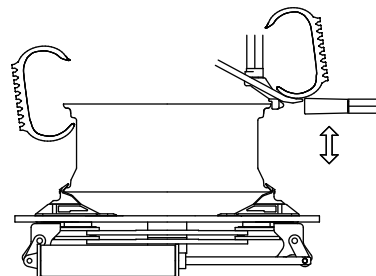
注 意

この際、マウントヘッドに対してビード部が左側のヘッドのつばに乗っていること。右側はこぶ下に落ちていることを確認して回転を行ってください。

(2) ビードアップ操作

下側ビードの取り外しの際、ビードの硬い扁平タイヤですとテーブル回転時にめくり上げていたビードが落ちてしまうことがあります。このような時にビードアップ装置を用いれば、容易に作業を行うことができます。

- ① ハンドバルブでアームを最下位まで下降させます。
- ② テーブル板と下側ビードの間にローラーを挿入し、ホイール径に合わせて水平軸を引き出します。
- ③ ローラーをある程度上昇させ、タイヤレバーで下部ビードをめくり上げます。
- ④ 更にローラーを任意の位置まで上昇させ、タイヤレバーを外します。
この状態でテーブル板を回転させれば簡単に取り外せます。



注 意

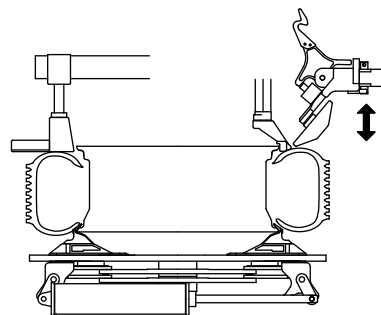
ビードアップローラーを差し込んだ状態でターンテーブルを回転させる場合、必ずローラーがチャック爪より上にあることを確認して下さい。ローラーとチャック爪が干渉し、損傷する危険性があります。

(7)マウントプレス装置

マウントプレス操作

超扁平タイヤの組込みはビードプレス装置だけでは、回転中にビードがめくり上がる場合がありますが、マウントプレス装置を併用すると、よりスムーズな組込みを行うことができます。

- ①ハンドバルブでアームを上昇させます。
- ②アームを回転させ、マウントプレス板を右側90°程度の位置でホイール径に合わせます。
- ③ハンドバルブで、マウントプレス板がビード部を押し下げる位置まで下降します。
- ④その状態でターンテーブルを回転させると、マウントプレス板がタイヤ回転と一緒に回っていき、スムーズな組込みが行えます。



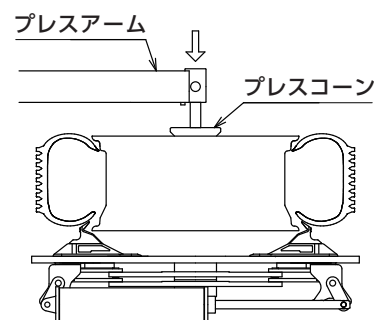
注 意

マウントプレス板でタイヤを押さえてのテーブル回転は、マウントヘッドに干渉する前で停止し、上側に逃がしてください。

(8)ホールプレス装置

ビードの硬い扁平タイヤの外面チャックを行う場合、ホイールとビードの隙間が少なく押え込みが大変ですが、ホイールプレス操作により確実な外面チャックを行えます。

- ①チャッキングペダル操作による中間ストップで、あらかじめスライダー位置をホイールサイズに合わせます。
- ②タイヤをテーブル板上にのせます。
- ③プレスアームを手前いっぱい引き、ホイールセンター部によせます。
- ④プレスアーム先端部にプレスコーンをセットします。
- ⑤ホイールが4つのチャック爪内にあることを確認し、プレスコーンが落ちないように手でサポートしながらプレスアームを下降し、ホイールを押さえ込みます。
- ⑥チャッキングペダル操作でチャック爪をホイールが確実にチャックできる位置までセットしたら、プレスアームの押さえを少しゆるめてからホイールを確実にチャックさせます。



注 意

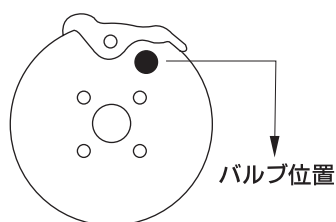
マウントプレス板でホイールを押さえる際、必ずホイールが4つのチャック爪内にあることを確認してください。チャック爪内にはない状態でチャッキングを行うと、ホイールを損傷する危険性があります。

(9)ディマウント

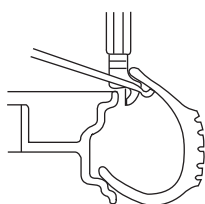
(1) 通常タイヤ用

- ①ホイールのバルブ位置を (A)図の様にタイヤ爪の位置にセットします。
- ②タイヤレバーで (B)図の様にフィンガー部をテコにしてビードをめくり上げ、ビード部を完全にタイヤ爪の上へのせます。ビード部がタイヤ爪の上に乗りにくい場合は、ターンテーブルを僅かに逆転させてください。
- ③タイヤレバーを抜き取りターンテーブルを正転させれば、ビード部はホイール部からディマウントされます。この時 (C)図の様にタイヤ爪側を持ち上げ反対側を押し下げると、硬いタイヤも無理なくスムーズにディマウントできます。

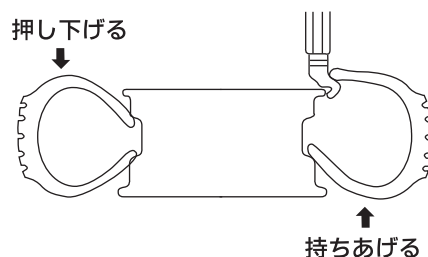
【A図】



【B図】



【C図】



- ④下部ビードの場合も上側と同様の操作を行いディマウントします。



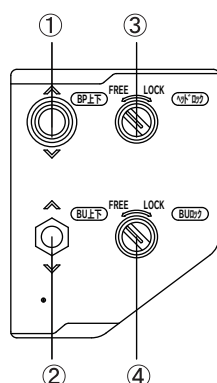
注 意

タイヤレバーでビードをめくり上げたあと、レバーを抜かずに正転を行うとレバーがホイールに接触し、ホイールを損傷する恐れがありますので、必ずレバーを抜いてから正転を行ってください。また、タイヤ損傷防止のため、タイヤ爪の反対側がドロップセンター部に落ちていることを確認しながらディマウントしてください。

(2) 偏平タイヤ・ランフラットタイヤ用

(2)-1 レバーレス操作 [Iota Pro / Iota / Iota X]

● 操作スイッチと各部の動作

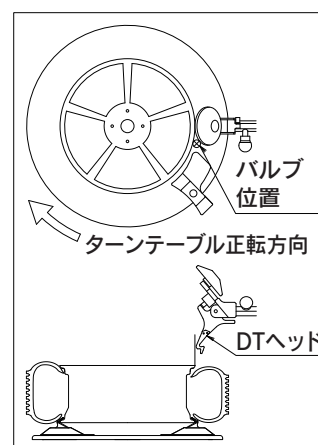


- ① ビードプレス上下スイッチ
ビードプレスローラーの上下移動を行います。
- ② ビードアップ上下スイッチ
ビードアップローラーの上下移動を行います。
- ③ ビードプレスシャフトロックスイッチ
ビードプレス軸のロック・解除を行います。
- ④ ビードアップシャフトロックスイッチ
ビードアップ軸のロック・解除を行います。

① タワーを転倒させます。

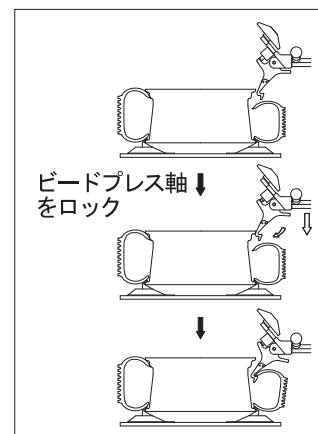
② ツールを反転しDTヘッドをセットします。

③ ビードプレス軸をフリーにして、マウントプレス板でDTヘッド挿入位置横のタイヤビード部を押さえホイールリムとタイヤとの間に隙間を作り、ビードプレス軸を図の位置まで伸ばします。この時、バルブ位置を図の位置にくる様にセットしてください。



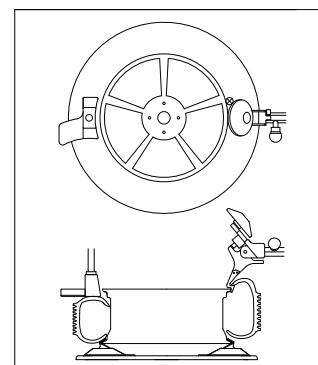
④ DTヘッドを所定の位置まで下げて、シャフトロックスイッチ操作でビードプレス軸をロックします。

⑤ マウントプレス板を一旦外しターンテーブルを回しながら更にDTヘッドを下げて、タイヤビードをホールドします。

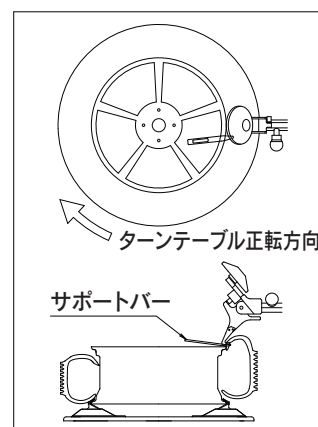


⑥ マウントプレス板でDTヘッド反対側のタイヤビードをホイールドロップセンター部までしっかりと押し下げて、タイヤビードをホールドしたままDTヘッドを所定の位置まで上げます。

⑦ マウントプレス板を外し、ターンテーブルを回転します。



※ターンテーブルを回転させてもタイヤがディマウントされない
場合には図の様に付属のサポートバーを使ってください。



注 意

- ①操作前には必ずタイヤビード部及びDTヘッドにタイヤ潤滑剤を塗布してください。塗らずに作業を行うとタイヤビード部及びホイールを損傷する恐れがあります。
- ②DTヘッドを差し込む際、ターンテーブルを回転させずに強制的に差し込むとタイヤ及びDTヘッドの損傷につながる場合があります。
- ③DTヘッドでタイヤビードをホールドし持ち上げて行く際には、ヘッドの反対側のビードがホイールドロップセンター部に落ちている事を確認しながら作業を行って下さい。ドロップセンター部に落とさずに持ち上げていくとタイヤビード及びDTヘッドの損傷につながる事があります。
- ④DTヘッドでタイヤビードをホイールリム上まで持ち上げてターンテーブルを回転させてもビードが外れてこない場合、そのまま回転を続けるとビードが張られて行き、ヘッドの破損につながります。
この場合はDTヘッド部以外のビードをもう一度しっかりとドロップセンター部まで落とし込み、サポートバーを差し込みホイールと共にテーブルを回転させてください。



警 告

DTヘッドは消耗品扱いとさせていただきます。
上記注意事項を厳守せずに樹脂爪を損傷した場合は、クレーム対象外となりますので充分ご注意ください。

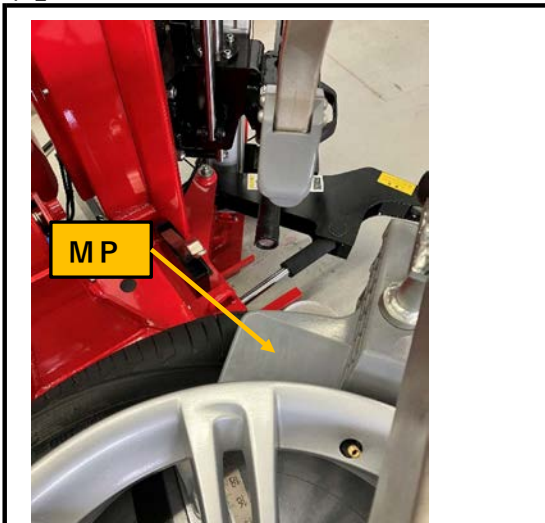
(2)-2セミオート操作(ファーストビードディマウント作業)[IotaPro]

1-1



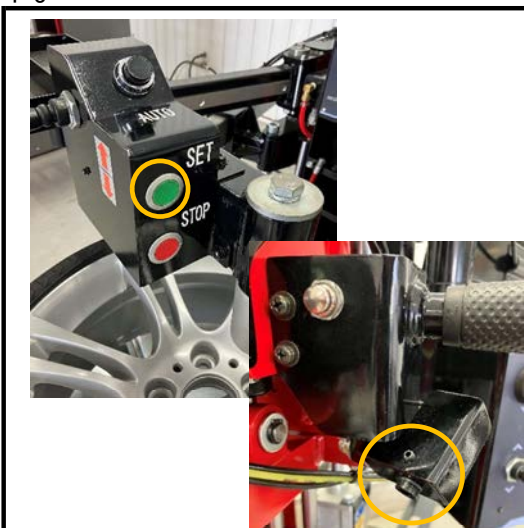
バルブをDTヘッドの右隣(DTヘッドから1時~2時の位置)にセットします

1-2



MPをDTヘッド下の位置にセットし
タイヤをしっかりと押さえます

1-3



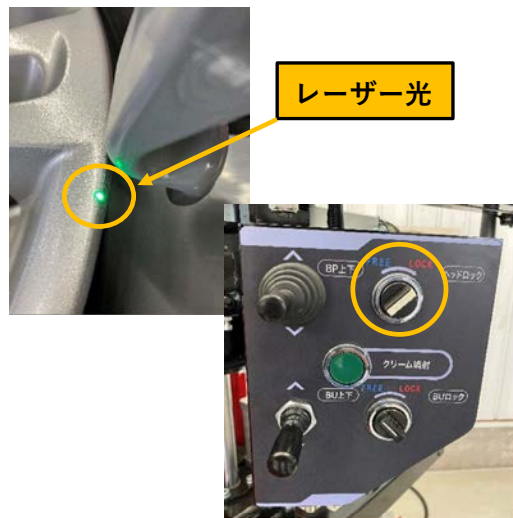
セットボタンを押すとレーザープロ
ジェクターから緑色のレーザー光が照
射されます
このレーザー光を目印にしてDTヘッ
ドをセットします

1-4



まずBP軸を引っ張りDTヘッドをホ
イールリムに合わせます
この時DTヘッドとホイールはできる
だけ近づけます

1-5



次にレーザー光がホイールのリム際に照射されるようにBPを上昇下降します
 レーザー光を合わせたらヘッドロックのスイッチを『LOCK』にします
 ※『LOCK』にしないと自動運転が動作しません

1-6



【AUTOスイッチ】
 押している間のみ自動運転が動作します
 離すと一時停止状態となり、再度押すと引き続き自動運転が動作します
 【ADPモニター】
 自動運転の工程が確認できます
 赤ランプの工程箇所では手動操作や確認が必要となります

AUTOスイッチを押すとDTヘッドが下降しその後テーブルが約90°回転します

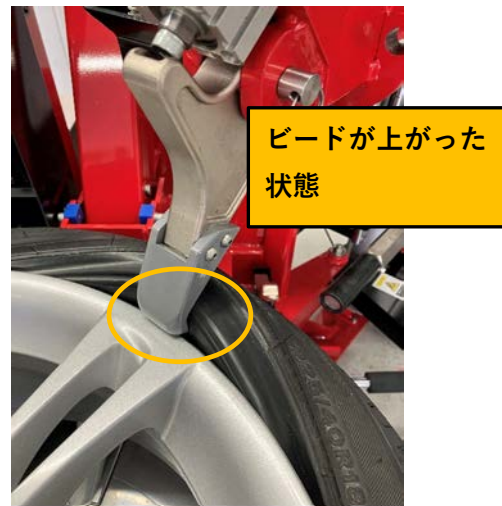
ADPモニターの『MP解除⇒AUTOスイッチ』が赤色点滅し自動運転が一旦止まりますのでAUTOスイッチから手を離しMPを手動で解除します

1-7



AUTOスイッチを押すと更にテーブルが回転しその間にDTヘッドが挿入されます
 回転が止まるとDTヘッドが上昇し自動運転が一旦止まります
 ※DTヘッドがタイヤに入らなかった時はSTOPボタンを押し1-1からやり直して下さい

1-8



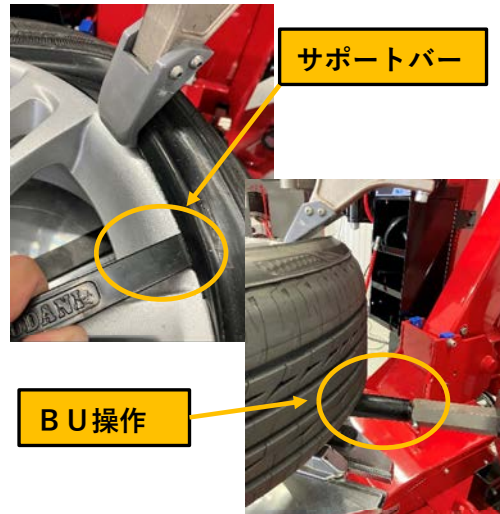
ADPモニターには『ビード確認⇒AUTOスイッチ』が赤色点滅していますのでAUTOスイッチから手を離しビードが上がっているかの確認をおこないます

1-9



ビードが上がっていない場合にはM P
でD Tヘッド対向側のビードを押さえる
事でD Tヘッドと共にビードが上が
ります

1-10



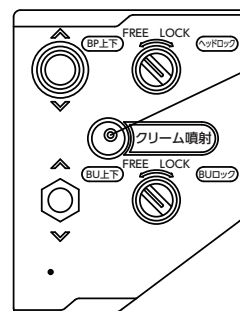
再度A U T Oスイッチを押すとテーブ
ルが約1周回転しタイヤが外れます
ブザーが鳴り自動運転が終了します
※テーブルが回転してもタイヤが外れてこない
場合にはサポートバーの挿入やB U操作をおこ
なってください

(10)タイヤクリーム噴射(Iota Pro標準装備)

1. 操作

- ①タイヤクリーム噴射ボタンを押している間
タイヤクリームが噴射されます。
- ②噴射ボタンを押しながらテーブルを回転し
タイヤビード部全体にタイヤクリームを塗
布します。

Iota Pro BP操作部

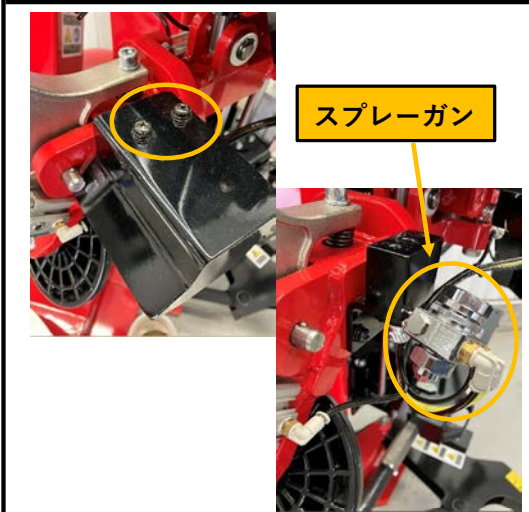


タイヤクリーム
噴射ボタン

2.調整/その他

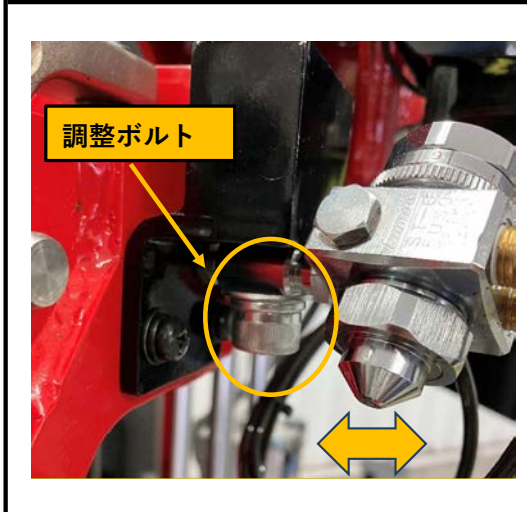
2-1.スプレーガンの調整

1-1



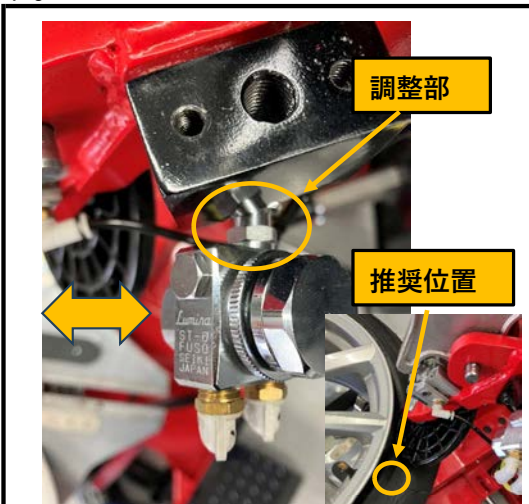
カバーを外すと（ボルト2本）スプレーガンがあります

1-2



スプレーガン取付のボルトを緩めて左右方向の調整を行い、再度ボルトを締め直します

1-3



スパナ（12mm）で写真丸印の六角部を緩めスプレーガンの上下方向の調整を行い、再度六角部を締め直します

※各調整にてB Pローラーの手前側横に合わせることを推奨します

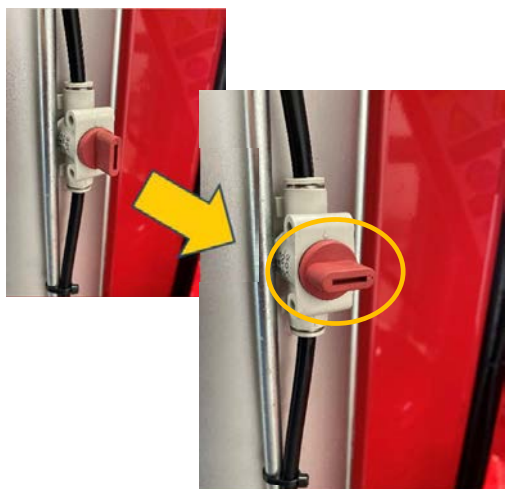
1-4



液量調整ツマミでクリーム噴射液量を調整します

2-2. タイヤクリームの追加

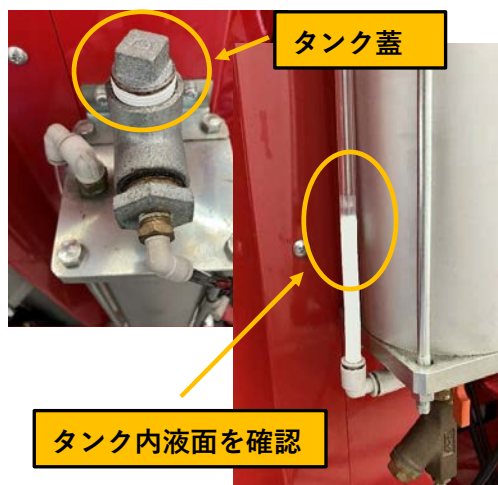
1-1



タンクについているクイックバルブのツマミを横に切り替えてタンク内のエアを抜きます

※エア抜きはタンクの蓋を開ける前に必ず行ってください

1-2



タンクの蓋を外し純正液体クリームを追加します

タンク内の液面位置は配管のクリーム液面にて確認できます

※タンクには空の状態です約2.5 Lクリームを入れることができます

1-3



タンクの蓋を閉めます
この時エアが漏れるおそれがある
為、蓋にシールテープを付けてください

1-4

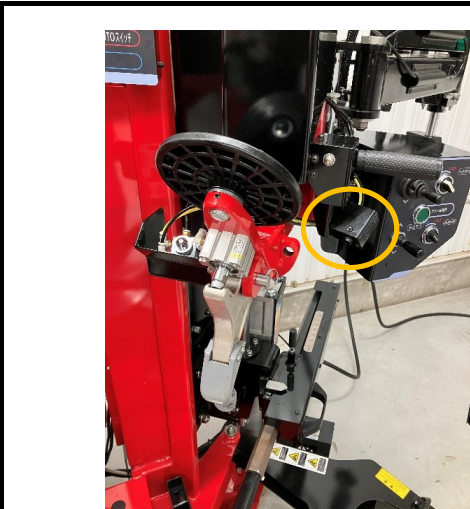


クイックバルブのツマミを縦に切り替えます

※ツマミの切り替えを忘れますとタンク内が加圧されずクリームが噴射されません

2-3.レーザーポインタ位置の調整

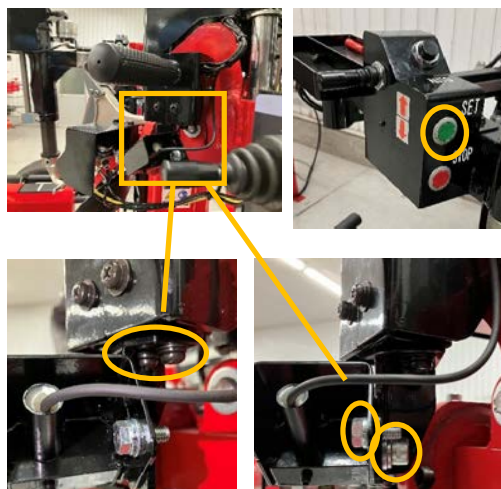
1-1



※ レーザーポインタの位置がズレた場合には下記位置合わせを行ってください

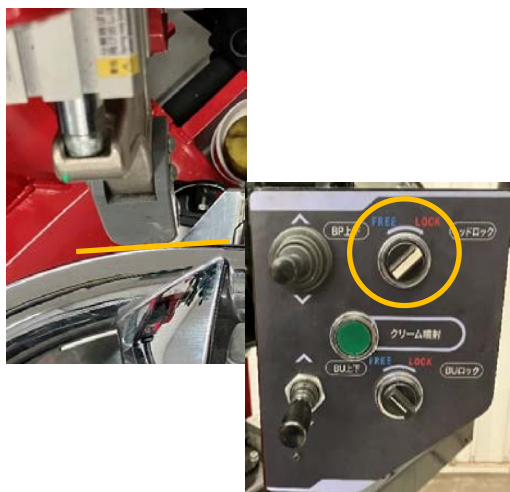
ポインタ位置がズレた状態で自動運転を行うと正常な動きができず、部品の破損につながる恐れがあります

1-2



黒色のビス2本と六角ボルトとキャップボルトを緩めます
セットボタンを押してレーザー光を照射します

1-3

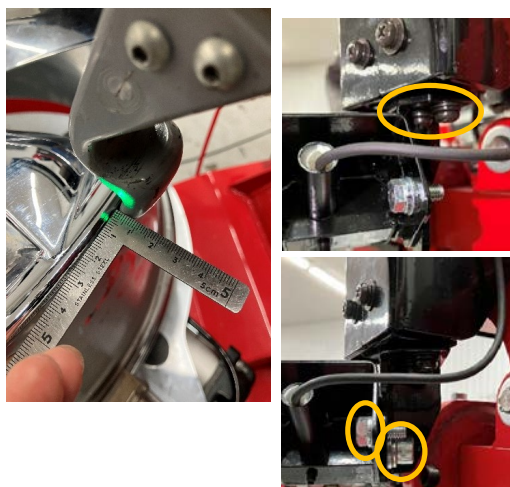


B P軸を引っ張りD Tヘッド樹脂爪をホイールリムに合わせます
この時D Tヘッド樹脂爪とホイールはできるだけ近づけます
次に、ヘッドロックのスイッチを『LOCK』にします

1-4



DTヘッド樹脂爪とホイールのクリアランスを10mmに合わせます



レーザー光をホイールのリム際でD
Tヘッド樹脂爪の右横5 mmに合わ
せます

次に、黒色のビス2本と六角ボルト
とキャップボルトを位置がズレない
ように締めます

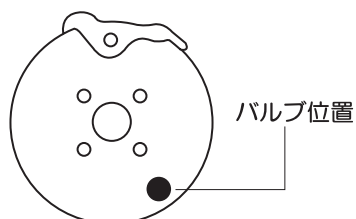


ストップボタンを押してレーザー光
の照射を止めて完了です

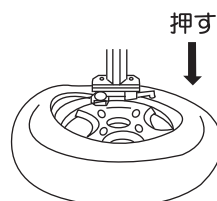
(11)マウント

- ①ホイールのバルブ位置を (D)図の様にタイヤ爪の右方向約150° の位置にセットします。
- ②タイヤ爪をセットし (5項参照) ビード部をタイヤ爪左側のつばの上にのせ、右側のフィンガー部下へ押し込みながら、ターンテーブルを正転させマウントします。
この際 (E)図の様にタイヤサイド部をホイールのドロップセンター部に押し込んでください。
- ③上側ビード部も同様にマウントします。

【D図】



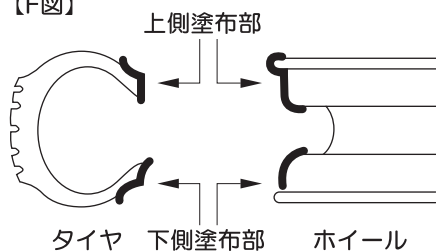
【E図】



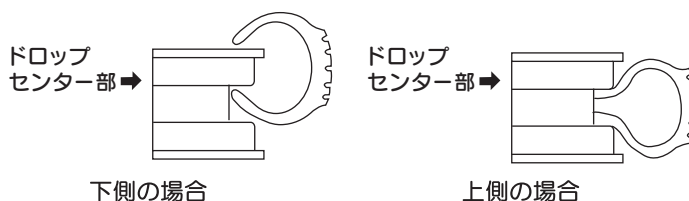
注 意

- ①タイヤマウント時には必ずタイヤ潤滑剤を (F)図の様に、ビード部およびホイールに塗布してください。塗らずにマウントするとタイヤビード部を損傷する恐れがあります。
- ②マウント時、連続回転で一挙にタイヤを組み込もうとすると、タイヤを損傷する恐れがありますので、(G)図のようにビード部がホイールのドロップセンター部に入っているかを確認して回転・停止を繰り返しながら、徐々にマウントしてください。

【F図】



【G図】



6. 定期点検



危険

- 点検の際電気部品に触れる必要がある場合は、必ず電源を切ってください。
また、元電源を入れたまま電気部品に触れる必要がある時は、端子等に触れないように十分に注意してください。
- エア系統を点検する必要がある場合は必ず元圧を切り、ペダル操作を2、3回
行い、機械内の圧力がなくなった事を確認してから点検してください。



注意

- カバー等を外して点検を実施した場合は、必ず元通りに全ての取付けねじ等
を使用して元に戻しておいてください。
- 点検の結果、異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完
全に行うまではチェンジャーの使用を禁止して、直ちにお買上の販売会社に
連絡してください。そのままお使いになるとチェンジャーの破損および重大
な事故につながる危険性があります。

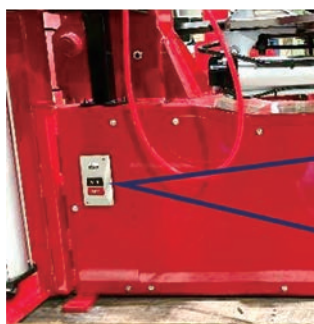
【 EXCEED Iota Pro 】



電源スイッチ



【 EXCEED Iota / Iota X / Iota S 】



電源スイッチ



※メンテナンス時には作業前に必ず電源を切ってください。

テーブル回転ペダルを踏みテーブルが回転しない事などから確実に電源が切れている事を確認しメンテナンス作業を行ってください。

期 間	点 検 箇 所	点 検 項 目	点 検 要 領
毎 日	各ボルトナット	緩 み	増し締めする
	各 操 作 ペ ダ ル	作 動	スムーズに作動するか → グリス塗布
	ターンテーブル	正 転 ・ 逆 転	スムーズに回転するか、異音がないか
	チャッキング	作 動 チャック力	スムーズに開閉するか → グリス塗布 エア洩れがないか
	タ ワ ー	転 倒 ・ 倒 立	スムーズに作動するか → スピコン調整
	アームロック	ロック・解除	スムーズに作動するか
	ビードブレーカー	作 動 ブレーク力	スムーズに作動するか エア洩れがないか
	減 圧 弁	調 整 圧	0.8～1.0MPa内になっているか
	フ ィ ル タ ー	ド レ ン	カップ内のドレン → 水抜きを行う
毎 週	オ イ ラ ー	オ イ ル	オイルの補給 → タービン油 (ISO.VG32)
毎 月	V ベ ル ト	ス リ ッ プ	ゆるんでないか → ベルトを張る 磨耗・亀裂がないか → 交換
	各 リ ン ク 部	円 滑 な 作 動 磨 耗 ・ 破 損	スムーズに作動するか → グリス塗布 有害な磨耗・破損はないか → 交換

7. 故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度確認してください。

異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも不都合のある場合はお買上げの販売会社へご相談ください。

症 状	点 検	処 置・修 理 (修理は販売会社へ連絡)
回転ペダルを踏んでもターンテーブルが回らない	モーターは回っているか YES NO モーターが単相運転になっていないか YES NO 正転または逆転しかしていない YES	Vベルトを張る 電源および電源コードを調べる カムスイッチの入切調整または交換
チャッキングペダルを踏んでもチャッキングシリンダーが作動しない	シリンダーまでエアが来ているか YES NO スリップリンクまでエアが来ているか YES NO チャッキングバルブまでエアが来ているか YES	エア洩れがないか調べる シリンダーのパッキン交換 ストップリングの分解掃除 またはOリング交換 エアバルブの分解掃除 または交換
ビードブレーカーペダルを踏んでもビードブレーカーが作動しない	シリンダーまでエアが来ているか YES NO ビードバルブまでエアが来ているか YES	エア洩れがないか調べる シリンダーのパッキン交換 エアバルブの分解掃除 または交換

【Iota Proの場合のみ】

タイヤが回転しない

- サーマルリレーがはたらいてないか。
制御ボックス内写真○印のサーマルリレー復帰ボタンを押してください。
サーマルリレーは作動してしばらくは復帰できません。
2～3分待ってから押してください。



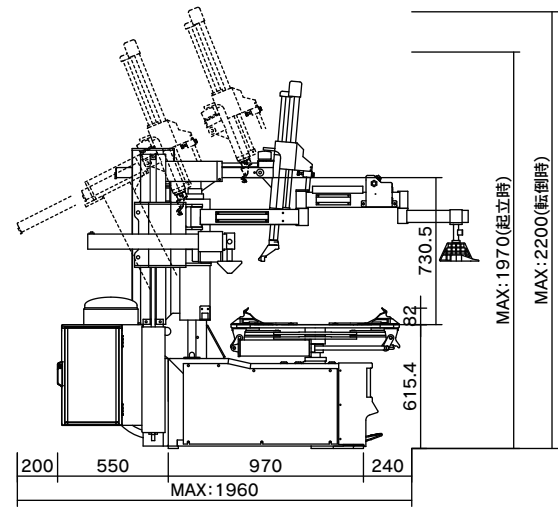
8.仕様

		EXCEED Iota Pro	EXCEED Iota	EXCEED Iota X	EXCEED Iota S
適用リム径		10~26インチ (外面固定) (10-22/12-24/14-26)		10~26インチ (外面固定) (12-24/14-26)	
適用リム幅		3.5 ~ 14インチ			
最大タイヤ		径 1,100mm 幅 380mm			
タイヤ回転モーター		3相 200V 1.5/0.75 Kw 2スピード (エアブレーキ付)			
ブレーカー容量		20A以上			
使用空気圧		1,000 kPa			
本体重量		約780kg	約755kg	約735kg	約730kg
標準装備	テーブル回転2スピード仕様	●	●	●	●
	ホイール受けプロテクター	●	●	●	●
	インフレーター装置	●	●	●	●
	デュアルツール	●	●	●	BPのみ
	ビードアップ装置	●	●	●	●
	サードプレス装置	●	●	OP	OP
	マウントプレス装置	●	●	●	●
	ホイールプレス装置	●	●	●	●
	シリンダー昇降式アーム	●	●	OP	OP
	スプリング昇降式アーム	選択式	選択式	●	●
	ハンド式ビードブレーカー	●	●	OP	OP
	フット式ビードブレーカー	選択式	選択式	● (衝撃緩和無し)	● (衝撃緩和無し)
	クリーム噴射装置	●	OP	—	—
	自動エア充填機 (PA-01)	●	●	OP	OP
	ペダル連動ゲージ	OP	OP	●	●
	小物収納ボックス	●	●	●	●
LTセット (LTヘッド、ブレーカー受けケース)		●	●	●	ブレーカー受けのみ

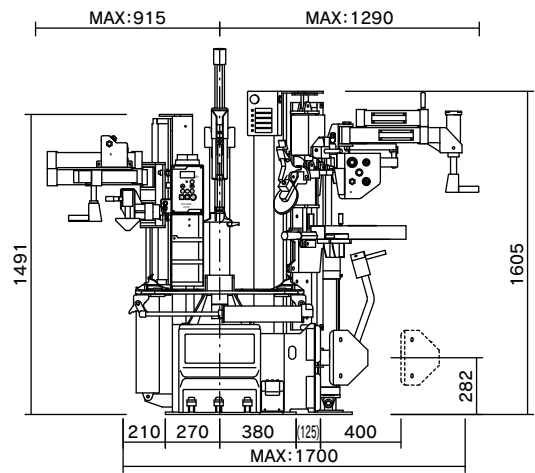
※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

本体寸法

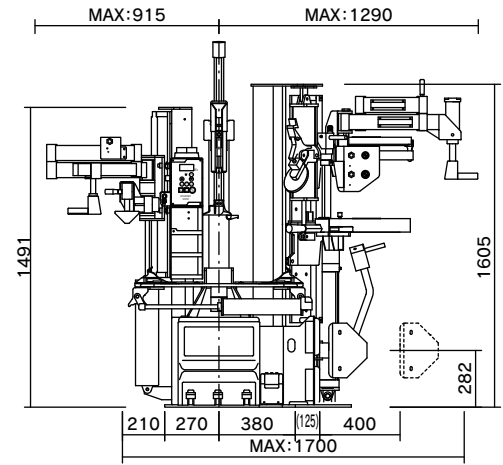
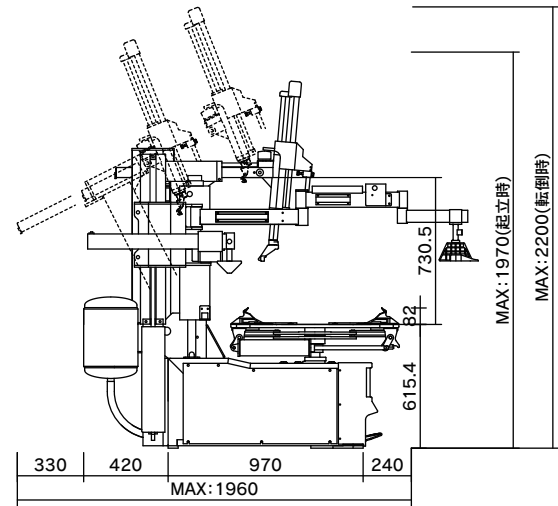
lota Pro



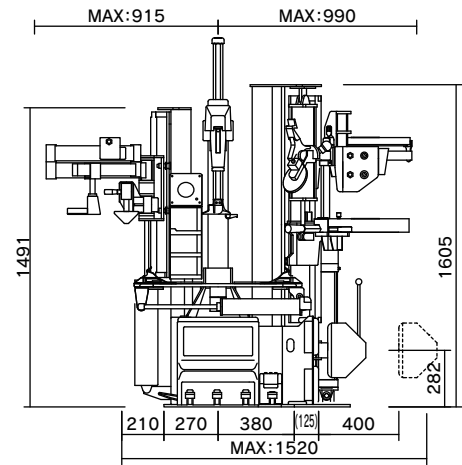
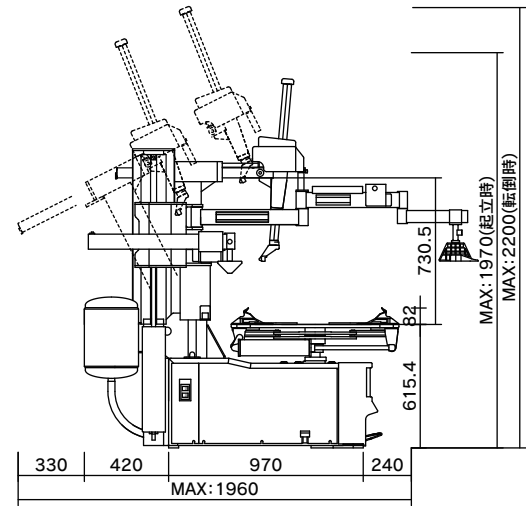
lota Pro / lota 兼用寸法



lota



lota X / lota S兼用寸法



9. 製品保証規定

(1) 保証規定

取扱説明書、本体注意ラベル等の注意書に従って正常な使用状態で保証期間内（納入後1年以内）に故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をさせていただきます。

但し二次的に発生する損失の補償及び、次の場合に該当する故障は保証はいたしません。

- ①使用上の誤り、保守点検、保管等の義務を怠ったために発生した故障及び損傷。
- ②商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
- ③消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- ④火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変等、外部に要因がある故障及び損傷。
- ⑤指定された純正部品をご使用されなかったことに起因する場合。
- ⑥日本国以外でご使用の場合。
- ⑦保証手続きが不備の場合（例：型式及び機体番号の連絡が無い場合 etc）。
- ⑧設置に原因がある故障及び損傷。



注 意

**このタイヤチェンジャーは屋外設置及び防水仕様にはなっておりませんので、
錆、腐食、漏電等の水による故障は保証いたしておりません。**

(2) 保証請求方法

上記規定に基づき、本製品の保証請求を行う場合は、お買上の販売会社にご一報下さい。
必要な手続きを実施いたします。

尚、保証の要否は大変勝手ながら弊社に於いて判断させていただきますのでご了承下さい。

(3)アフターサービスについて

調子の悪いとき	この取扱説明書の7項の故障と処置欄をご覧ください。
それでも調子の悪いときは	商品保証規定に従い修理をさせていただきますのでお買上販売会社へ修理を依頼してください。
保証期間中の修理について	保証期間は納入後12ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理させていただきます。
保証期間後の修理について	お買上販売会社にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望によって有料修理いたします。
アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買上販売会社にお問い合わせください。	
お問い合わせいただく際は、次のことをお知らせください。 型式・機体番号・購入年月日・故障状況(できるだけ詳しく)。	

上記の事項を下表に記録しておくとお問い合わせの時便利です。

型 式	
機 体 番 号	
購 入 年 月 日	年 月 日
販 売 会 社	社名 担当者
	住所 電 話
設 置 業 者	社名 担当者
	住所 電 話
故 障 日 ・ 状 況	年 月 日
	年 月 日

(4)設置(据付)及び移設について

本製品の設置(据付)及び移設は、お買上販売会社へ依頼してください。

移設の場合は販売会社による点検を実施してください。

取扱説明書

品 名 PC用タイヤチェンジャー エクシード

型 式 **EXCEED Iota Pro / Iota
Iota X / Iota S**

初 版 発 行 月 日	令 和 5 年 7 月 1 日
-------------	-----------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 6 年 4 月 1 日
-------------	-----------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------

編 集 兼 発 行 者	機 工 技 術 部
-------------	-----------

発 行	小 野 谷 機 工 株 式 会 社
--------------------------	-------------------

無断複写・掲載を禁ず。



ONODANI 小野谷機工株式会社



本社／ 福井県越前市家久町63-1 ☎0778-22-2124

札幌営業所	☎011-791-8588	仙台営業所	☎022-255-7408	秋田営業所	☎018-800-2556
東京営業所	☎03-5970-6011	新潟営業所	☎025-281-8251	名古屋営業所	☎052-354-1021
福井営業所	☎0778-21-0335	大阪営業所	☎072-337-5056	広島営業所	☎082-573-5012
四国駐在	☎082-573-5012	福岡営業所	☎092-582-6743	沖縄駐在	☎092-582-6743

「販売会社又は施工業者の方へお願い」
この取扱説明書は、お客様に必ず渡してください。